



HEALTHY PEOPLE AND SOCIETY



優先テーマ③

生産性向上を通じた働きやすさの向上

優先テーマ④

未来への挑戦を支える機会の拡大

優先テーマ⑤

すべての人々の心身の健康増進

注) 優先テーマによって取組主体が異なります

一人ひとりのwell-beingと健全な社会への貢献

私たちが目指すHealthy People and Societyとは、一人ひとりが心身ともに健やかで、自らの力を発揮できる場を持ち、挑戦や学びを重ねながら充実した人生を送れる社会です。

しかし現実には、日本では、生産性の低迷や人手不足が企業の成長を制約し、将来世代の多くが自国の未来に明るい展望を描けないなど、社会全体が十分な活力に満ち溢れているとは言い難い状況にあります。

だからこそ私たちは、日本の企業経営を金融と業務の両面から支え、生産性向上と、働く人々が誇りと働きがいを持てる環境づくりに取り組みます。

また、私たち自身が変革に挑み続けてきたからこそ、挑戦する子どもや若者の可能性を育みます。

そして、挑戦や学びを支える基盤として、時代ごとの健康課題に向き合ってきた歩みを受け継ぎ、適切なヘルスケアへのアクセスを確かなものにしていきます。

人生のさまざまな局面で、一人ひとりのエンパワーメントを促進していきます。

優先テーマ③

生産性向上を通じた 働きやすさの向上

優先テーマ④

未来への挑戦を支える機会の拡大

優先テーマ⑤

すべての人々の心身の健康増進



生産性向上

業務を効率化するBPOサービスの提供

近年、企業経営を取り巻く環境は急速に変化し、個別サービスの導入といった単一的な施策では対応困難な複合的な課題が顕在化してきています。こうした状況の中、日本の労働者の大半を雇用する中小企業に対し、総務・人事領域の課題解決や生産性向上を支援するBtoBのBPOサービスを提供し、世の中の働く人々が「イキイキと働ける」環境づくりを支援していきます。

企業の経営課題の多角的な支援（第一生命保険）

第一生命保険では、法人のお客さまが直面する複雑化した経営課題に対し、従来の保険を中心としたサービスに加え、以下の4つの分野において新たな非保険ソリューションの提供を開始しました。

既存の各種ソリューションとの連携を通じ、「保険サービス業」への進化による包括的な価値提供を行います。

人材・組織マネジメント

- 効率的な人材確保
- 適切な人材配置・育成
- 1on1支援による組織力強化



福利厚生・エンゲージメント

- 充実のサブスク型福利厚生、会員制割引サービス
- 食事補助を通じた日常生活支援
- 従業員のリテラシー向上



健康経営・生産性向上

- 健康増進・プレゼンティーズム対策
- 健康診断・人間ドックに係る業務のアウトソーシング
- メンタルヘルス・健康経営領域における企業の組織安定化への支援



業務効率・コスト最適化

- 受発注・請求業務の効率化
- 賃料の適正化
- 間接コストの見える化・適正化
- カード払いによる資金繰り改善
注) 今後提供予定



他社との提携によるData to Dataでの業務効率化支援（第一生命保険）

2026年2月、インフォマート社との戦略的資本業務提携を締結しました。インフォマートは請求書・受発注・契約などの企業同士の取引をデジタル化し、サプライチェーン全体をData to Dataで効率化・生産性を向上させる新しい付加価値を企業に提供します。第一生命保険では、同社との協業を通じて中小企業が抱える業務課題解決に向けて取り組んでまいります。



ハピルス健診代行サービス(ベネフィット・ワン)

健康診断に関わる業務を代行する、健診代行サービスです。全国3,300カ所に及ぶ豊富な健診ネットワークを有し、健診予約のワンストップ代行により企業担当者の負担軽減と従業員の受診率向上につながります。更に、健診結果の一元管理・可視化、WEBによるペーパーレス対応もしており、企業や個人の健康リテラシーの向上も実現しています。



魅力度向上

企業の魅力度向上に関する取組み

すべての人々がより良く生きていくことができる社会をつくるためには、生活の土台を支える社会システムの包摂的な整備と同時に、社会とのつながりを通して生きがい・働きがいを感じられる機会の提供が必要不可欠です。自身と社会とのつながりを見出し、個々人が生きがいを感じられる環境を整えることが求められている中、当社グループでは従来の保険領域に加え、総合福利厚生サービスの提供など新たな事業領域を拡大し、企業の持続的成長に向けた取組みを進めています。

ベネフィット・ステーション(ベネフィット・ワン)

ベネフィット・ステーションは、従業員のエンゲージメント向上に向け、グルメ・レジャー・ショッピングに加え、eラーニングなどの学習コンテンツ、育児・介護・引越などライフイベントに関わるものまで、国内外約140万件以上のサービスメニューを優待価格で利用できる総合福利厚生サービスです。また、各種サービス利用にかかる費用を給与天引きにて決済する仕組み「給トク払い」においては、ベネフィット・ステーションと異なる独自の特典・割引を提供することで、より生活の固定費削減に役立っています。2026年11月には「給トク払い」のサービスラインアップに、「給トク払い」ユーザー向けの団体保険「ベネトクほけん」を新たに追加することで、サービスの一層の充実を通じて企業の魅力度向上に貢献していきます。



団体保険(第一生命保険)

企業が従業員の死亡・高度障害・医療リスクに備えるための福利厚生制度として導入する1年更新型の保険で、企業の従業員規模や加入者数に応じて割安な保険料にて保障を受けることができます。従業員が自ら保障内容を選択できる「あんしんマイパッケージ」もラインアップしています。



DCのサプリー(第一生命保険)

一人ひとり必要としている栄養素が異なるように、資産運用で困っていることや分からないことも人それぞれです。第一生命保険のロボアドバイザー「DCのサプリー」は、DC(確定拠出年金)の加入者が自身の資産形成を行うことをサポートするアプリです。スマートフォンで、運用状況の確認から商品の見直しまでをスムーズに行うことができます。日々の資産形成を身近にし、自律的な資産管理を促進することで、従業員の経済的安心とwell-being向上に貢献します。



魅力度向上

企業の「健康経営」の推進

健康経営は、人手不足が進む中で従業員の定着・生産性向上を実現する重要な経営課題です。特に生活習慣病予防やメンタルヘルス対策などヘルスケア領域の取組みは、職場の活力向上に直結します。当社グループは、予防・健康増進・データ活用といった非保険領域に事業を展開することで、企業の持続的成長を支える包括的な健康支援に取り組んでいます。

QOLism(QOLead)

QOLeadは、企業の健康経営推進と従業員の健康増進を支援するヘルスケアアプリ「QOLism(キューオリズム)」を提供しています。運動・食事・睡眠などの多様なセルフケア機能に加え、ポイント付与などの仕組みにより、楽しみながら継続利用できる設計としています。従業員の日常的な健康管理や生活習慣の改善を支援し、従業員の定着・生産性向上に寄与しています。



中小企業における健康経営の普及促進(第一生命保険)

第一生命保険は、中小企業における健康経営の推進と従業員の健康増進を支援する取組みを展開しています。リアルチャネルによる個別フォローと多様なソリューションの提供を通じて、健康経営優良法人の認定取得支援や健康意識の醸成を推進しています。



優先テーマ④

未来への挑戦を支える 機会の拡大

優先テーマ⑤

すべての人々の心身の健康増進

優先テーマ③

生産性向上を通じた働きやすさの向上



次世代チェンジメーカーの支援

グループ各社の教育支援取組み①

自ら変革に挑み続けてきた当社グループは、次世代の子どもたちや若者にも教育を通じて新たな可能性に挑む機会を届けたいと考えています。グループ各社はそれぞれの地域で、未来を担うチェンジメーカーの育成に向けた教育支援を継続的に行っています。

スター・ユニオン・第一ライフの取組み

学習機会拡大への取組み

スター・ユニオン・第一ライフは、地域の教育環境向上に向けた支援を推進しています。ジャールカンド州グンラ地区では、理数系を学ぶ9～12年生約5,000名を対象に、24時間利用可能なオンライン授業を提供しており、学力向上と自信醸成につながっています。

また、マハラシュトラ州マラトワダ地域では、村の公立小学校の教室やトイレ、給水設備、図書館、デジタル学習環境の整備を行い、650名の児童と30名の教員に安全で質の高い学習環境を提供しています。

キャリア支援プログラム「Youth Meet」

スター・ユニオン・第一ライフは、農村地域の若者を対象としたキャリア支援プログラム「Youth Meet」を実施しました。本プログラムは、若者が将来の進路を主体的に選択できるよう、キャリアカウンセリングとスキル開発トレーニングを組み合わせ提供します。

スキル開発では、技術的・職業的スキルに加え、コミュニケーション、チームワーク、問題解決力、デジタルリテラシーなど、就業に不可欠なソフトスキルの向上に重点を置きました。本プログラムには120名の方にご参加いただき、地域の若者が自らの可能性を広げる機会となりました。



第一ライフ・ベトナムの取組み

教育機会の拡大と安全な水へのアクセス向上

第一ライフ・ベトナムは、子どもたちの学習機会の拡大と健康的な生活環境の整備に取り組んでいます。2011年から継続する「Clean Water Project」では、地方部の学校に水ろ過装置を設置し、安全な飲み水を提供することで学習環境と健康の改善を図っています。2025年には、約840名の生徒・教員が清潔で安全な水を利用できるようになりました。また、経済的に困難を抱える児童・生徒7,069名に対し、奨学金や防寒着、学習用品を寄贈し、継続的な学びを支える環境づくりをサポートしています。



自立した女性のための能力開発研修の実施

第一ライフ・ベトナムは、恵まれない女性たちのための職業訓練プログラム「ベトナム女性の未来のために」を継続して支援しています。

2025年は、ラムドン省の貧困患者支援協会(The Sponsoring Association for Poor Patients)と連携し、40名の障がいを持つ女性を対象にした編み物の職業訓練クラスを開催しました。

次世代チェンジメーカーの支援

グループ各社の教育支援取組み②

第一ライフ・カンボジアの取組み

キャリア形成支援と学習環境向上への貢献

第一ライフ・カンボジアは、若年層のキャリア形成支援と学習環境の向上に取り組んでいます。国立経営大学ではキャリアセミナーを開催し、50名超の学生に将来の職業選択を考える機会を提供しました。ドン・ボスコ職業訓練学校では、働くうえで必要となるスキルや会計・財務の基礎知識を伝える講座を実施し、30名の生徒が参加しました。更に、シアヌークビル州の5校へプリンターや学習教材を寄贈し、約1,000名の学生の学習環境向上に貢献しています。



第一ライフ・ミャンマーの取組み

児童養育施設への支援

第一ライフ・ミャンマーは、2020年から「ジャパンハート」が運営する児童養育施設「ドリームトレイン」を支援してきました。子どもたちのwell-being向上のために物資を寄付するとともに、プログラミングの授業を提供するなど、子どもたちがより良い教育を受けられるよう支援を行っています。2025年度は、学習教材やお弁当の寄贈に加え、ダンス、水泳、プログラミングなど8つの授業を提供しました。



TALの取組み

次世代のキャリア形成支援

TALは、社会経済的な背景にかかわらず若者が将来の可能性を発揮できるよう支援するため、2016年からAustralian Business and Community Network (ABCN)と連携してきました。ABCNを通じて、同社従業員が学生向けのメンタリングプログラムに参加し、次世代のスキル習得や就業準備をサポートしています。これらのプログラムは、生徒が将来の進路や職業選択を主体的に考える力を育むことを目的としています。2025年には、TALの従業員が19校で298名の生徒を支援しました。



アボリジニとトレス海峡諸島民の若者支援

TALは、アボリジニおよびトレス海峡諸島民の人々、文化、歴史に対する理解と尊重を深めることに取り組んでいます。2019年より、先住民の若者支援団体であるThe National Aboriginal Sporting Chance Academy (NASCA)と連携し、アボリジニおよびトレス海峡諸島民の若者が自らの夢や目標を実現できるよう支援するとともに、文化の継承や土地・地域コミュニティとのつながりの強化、次世代に向けた機会の創出を後押ししています。

2025年には、TALの従業員が先住民の伝統的なスポーツやゲームを体験したほか、学生をTALのオフィスに招き、教育やキャリア形成について学ぶ機会を提供するなど、NASCAとともにさまざまな活動に参加しました。このパートナーシップを通じて、TALの従業員とアボリジニおよびトレス海峡諸島民のコミュニティは互いに学び合いながら、持続的な社会的インパクトの創出に取り組んでいます。

優先テーマ⑤

すべての人々の心身の健康増進

優先テーマ③

生産性向上を通じた働きやすさの向上

優先テーマ④

未来への挑戦を支える機会の拡大



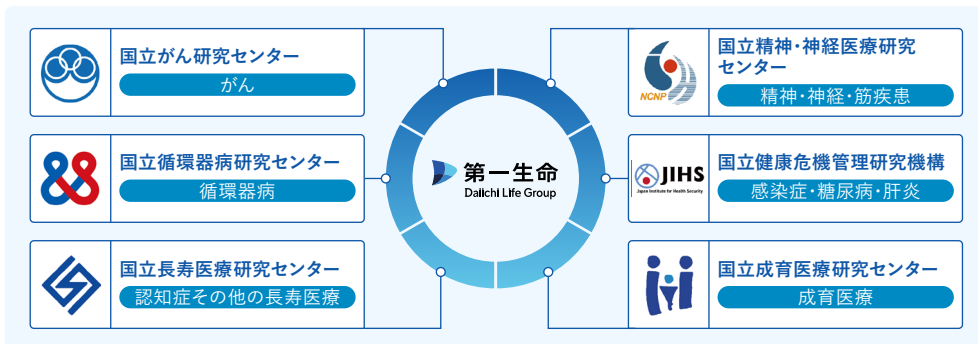
人々の健康増進を支えるための取組み

研究機構への支援・提携

当社グループは、創業以来「健康の増進」に向け、さまざまな取組みを推進してきました。近年では、国立の研究機関や大学と連携し、業界トップクラスの情報ネットワークを構築しています。お客さまの健康を第一に考え、生命保険を通じてお客さまへ「健康」という安心をお届けしています。

国立の研究機関との連携（第一生命保険）

お客さまに正確かつ最新の医療情報をお届けするために、2012年の国立がん研究センターを皮切りに、国立循環器病研究センター、国立長寿医療研究センター、国立成育医療研究センター、国立精神・神経医療研究センターといった国内最高峰の国立高度専門医療研究センターおよび国立健康危機管理研究機構と連携しています。3大疾病（がん・心疾患・脳血管疾患）や糖尿病、肝炎、感染症をはじめ、妊娠・出産・子育てに関する成育医療、認知症などの長寿医療、メンタルヘルスまで、幅広い世代にツールやセミナーなどを通じて、情報をお届けしています。



公益財団法人心臓血管研究所への支援（第一生命保険）

第一生命保険は、各種循環器疾患の医学的研究を行い、予防・診断・治療に資することを目的として、1959年に公益財団法人心臓血管研究所を設立しました。同財団は、臨床に直結する多くの研究成果を継続的に発表し、治療成績の向上に寄与しているほか、併設する付属病院では心臓カテーテル治療、心臓血管外科手術などの各分野におけるトップレベルのスタッフを配置し、高度で先進的な専門医療を提供しています。今後も寄付の実施など、同財団への支援を通じて循環器疾患に関する臨床医学の発展に積極的に貢献していきます。



大学と連携した健康寿命研究の推進（プロテクトティブ）

プロテクトティブは、アラバマ大学バーミングハム校（UAB）と連携し、健康寿命の研究を進める「UAB Longevity Project」を支援しています。本取組では、健康長寿分野の研究をリードする寄付講座の設置に加え、先進的な研究基盤の整備や、生活習慣・健康データを収集・分析する新たな技術開発を支援しています。これらの活動を通じて、老化や長寿に関する研究の発展を後押しし、将来的には公衆衛生政策にも役立つ知見の創出を目指しています。

人々の健康増進を支えるための取組み

健康増進イベントの開催・取組みの推進①

当社グループは、国民の健康を願い「健康の増進」に取り組むとともに、世界各地でそれぞれの時代の課題に応じた社会貢献を果たしてきました。

今後も、各国が抱える健康課題の解決および健康寿命の延伸に向けた取組みを推進していきます。

保健文化賞の主催（第一生命保険）



本賞は1950年の創設以来、厚生労働省などの後援を得て毎年実施している、第一生命保険において最も長い歴史をもつ社会貢献事業です。生活習慣病対策・高齢者や障がい者への福祉・海外での医療や疾病対策など、その時代におけるさまざまな課題に継続的に取り組んでこられた団体・個人を顕彰しています。

チャリティーラン「Run By Heart 2025」(第一ライフ・カンボジア)

第一ライフ・カンボジアは、特別な支援を必要とする子どもたちの教育を支えるため、現地のランニングコミュニティ「Run With Sai」と協力し、チャリティーラン「Run By Heart 2025」を開催しました。1,000名を超える参加者が集まり、特別支援教育を行う「Rabbit School」への寄付に加え、自閉症を含む特別支援児への理解促進にもつながる取組みとなりました。



白内障患者への視力回復支援（第一ライフ・ベトナム）

第一ライフ・ベトナムは、誰もが適切な医療サービスを受けられる社会の実現を目指し、経済的な理由により治療を受けることが困難な白内障患者への支援活動を継続しています。2025年度は、ベトナムの4つの省において、計801名の低所得者層の白内障患者を対象に、チャリティー眼科手術の実施を支援しました。



チャリティー健康診断の提供やオンライン健康プログラムの実施（第一ライフ・ベトナム）

第一ライフ・ベトナムは、地域の医療アクセス向上を目的に、2024年より貧困層や障がい者、孤児を支援するラムドン省にある団体を対象としたチャリティー健康診断プログラムを実施し、2025年度は500名に診療と医薬品を提供しました。また、同社は毎年オンライン健康・フィットネスプログラム「Journey of Love」を実施し、2025年度は11万1,000名の方が参加しました。日々の運動習慣の促進や健康意識の向上に貢献しています。



人々の健康増進を支えるための取組み

健康増進イベントの開催・取組みの推進②

「Community Health & Wellness Fair」の開催（プロテクトティブ）

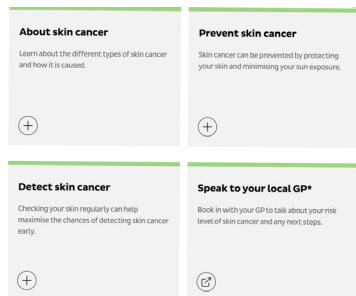
プロテクトティブは、周辺地域の住民の健康を促進することを目的に、「Community Health & Wellness Fair」を開催しました。血圧やコレステロールの測定、子どもの眼科検診などの無料医療サービスに加え、地元の健康関連団体20社が参加し、身体・精神・経済面の健康に役立つ情報を提供しました。248名の住民が参加し、地域の長期的な健康づくりを後押ししました。



皮膚がん予防への取組み（TAL）

オーストラリアでは、皮膚がんは生涯で3人に2人が経験すると言われるほど一般的ですが、早期発見と予防がしやすいがんでもあります。

TALは、2016年に「Spot Checker」を開始し、従業員のスキンチェックと予防啓発を目的としたプログラムとして毎年展開しています。2025年度には、パートナーファンドのメンバーに対して対面スキンチェックも実施しました。これらの取組みを通じて、皮膚がんの早期発見と予防意識の向上に貢献しています。



▲ Spot Checkerのサイト画面

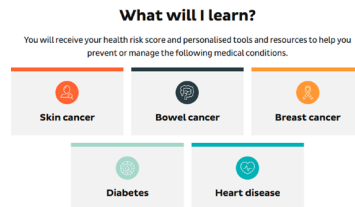
心血管疾患予防への取組み（TAL）

TALは、オーストラリアにおける心血管疾患予防の促進を目的として、The Heart Foundationと連携し、2025年度より「Heart Checker」キャンペーンを開始しました。本キャンペーンは、心血管検査の重要性に関する認知向上を図る取組みです。

2025年度は、専用ウェブサイトにて延べ108,618件のアクセスがあり（利用者数104,417人）、多くの人々が心血管リスクに関する情報へアクセスしました。また、4月15日～5月5日に実施した既存顧客向けコミュニケーションでは、64,000名に配信し、開封率63%と高いエンゲージメントを記録しました。

包括的な健康支援プログラムの提供（TAL）

パートナーファンドのメンバーに対し、心身の健康維持を包括的に支援するプログラムを提供しています。身体的リスクの教育やスクリーニングを行うHealth Scout、メンタルヘルスの状態把握とエビデンスに基づく支援を提供するHeadlight、無料または低コストで利用できる公的サービスを検索できるHealth Connectorなど、多様なサービスを展開しています。更に、パートナーファンドの従業員向けには、Health Checkerを通じて約5分間の健康チェックを実施し、2025年度は、合計459件の測定を行いました。



▲ Health Scoutのサイト画面

人々の健康増進を支えるための取組み

健康増進イベントの開催・取組みの推進③

SANEと連携したメンタルヘルス支援の強化（TAL）

TALは、複雑なメンタルヘルス課題を抱える人々を支援するデジタルメンタルヘルス分野の世界的リーダーであるSANEと3年間のパートナーシップを締結しました。本パートナーシップでは、個人を中心に据えたメンタルヘルス支援の実現に向け、デジタルツールやサービスの開発・拡充を進めています。初期の取組みとして、メンタルヘルスの苦痛を経験した人々を支える新たなデジタル支援サービスの開発に着手しました。

外部団体とのパートナーシップの強化（TAL）

TALは、多様な団体とのパートナーシップを通じて、人々の心身健康の増進を包括的に支援しています。

パートナー団体（一部）	分野	パートナーシップの内容
Mental Health Action Group	メンタルヘルス	資金支援
SANE Australia	メンタルヘルス	資金支援&年2回開催のAction Groupに参加、サービス開発
The University of Sydney	メンタルヘルス	資金支援&年2回開催のAction Groupに参加、サービス開発
Assure Programs	介護者サポート、グリーフサポート	資金支援、サービス提供
Super Friend	職場メンタルヘルス	資金支援、研修実施
The Heart Foundation	心血管疾患予防	資金支援、サービス提供
Royal Flying Doctor Service	予防医療、医療格差の解消	資金支援

多様な層への保険商品提供（TAL）

TALでは、2023年1月に保険引受ガイドラインを改正し、健康状態が良好なHIV感染者も生命保険、所得補償保険、および高度障害保険（TPD）に加入できる仕組みづくりに取り組んでいます。2025年度には、個人保険と団体保険の合計で40名のHIV感染者のお客さまにご加入いただきました。

また、保険の継続を希望しながらも保険料のお支払いが困難なお客さまを支援するためのFinancial Hardshipポリシーや、自然災害の被害を受けたお客さまに対して最大2か月間の保険料免除を提供するNatural Disasterポリシーも導入しています。



Financial Well-being for All

Healthy People and Society

Green Leadership

Proactive Governance and Engagement

環境・社会課題解決に向けた責任投資の推進

生産性向上を通じた働きやすさの向上 | 未来への挑戦を支える機会の拡大 | すべての人々の心身の健康増進

人々の健康増進を支えるための取組み

健康に関する寄付・支援の実施

グループ各社は、寄付や社員のボランティア活動に加え、専門性を持つ外部団体とのパートナーシップなどを通じて、地域社会の健康増進に向けた取組みを幅広く推進しています。

日本赤十字社への寄付(QOLeap)

QOLeapは、ヘルスケアアプリ「QOLism」を通じて、社会課題への支援に取り組んでいます。多くのアプリユーザーが獲得したポイント交換により、「日本赤十字社への寄付」を実施しました。社員一人ひとりが「身体的」「精神的」「社会的」well-beingの実現という使命のもと、事業と連動した社会貢献活動を通じて、社会課題の解決に取り組んでまいります。

SVDPへの寄付・支援(プロテクトイブ)

プロテクトイブは、継続的な寄付およびボランティア活動を通じて、主要営業拠点が所在するシンシナティ地域で生活に困難を抱える人々に、食料、住居、衣類、医療サービスを提供する団体 Society of St. Vincent de Paul Cincinnati(SVDP)を支援しています。プロテクトイブは、従業員ボランティアの参加に加え、冬用コートの寄付やフードパントリー支援など、さまざまなイベントを通じてその活動を後押ししており、2025年には、180名の社員がボランティアに参加しました。



アンコール小児病院への寄付(第一ライフ・カンボジア)

第一ライフ・カンボジアは、乳幼児に質の高い医療を提供するアンコール小児病院を継続的に支援し、カンボジアの子どもたちの医療アクセス向上と健康改善を支援しています。2025年度には15,000ドルの寄付を行いました。また、カンボジア・タイ国境衝突の影響を受けた避難民家族に対しても、同病院を通じて医療支援を提供しています。

Starship Child Healthへの寄付(パートナーズ・ライフ)

パートナーズ・ライフは、ニュージーランドの小児専門医療機関であるStarship Child Healthへの寄付を通じて、子どもたちの健康と福祉の向上を支援しています。世界水準の医療および支援サービスへのアクセス向上に貢献することで、子どもたちの健やかな成長を支え、将来世代のより健康で豊かな未来の実現に寄与しています。

医療保険

必要な医療に安心してアクセスできる医療保険

人生100年時代を迎え、資産形成・承継ニーズが顕在化する中、Daiichi Lifeグループの各社はお客さま一人ひとりが抱えるライフプラン上の課題やリスクに寄り添い、最適なプロテクションをお届けし、生命保険会社としての社会的意義の発揮に向けて取り組んでいきます。

「じぶんケア(生活習慣病重症化予防応援保険)」(第一生命保険)

必要な保障を組み合わせでお客さま一人ひとりに“ぴったり”な保険を提供する「ジャスト」のラインアップの一つとして発売した商品です。高血圧性疾患・脂質異常症・糖尿病・高尿酸血症(痛風など)の治療を目的とした投薬治療などに備えられます。生活習慣病を投薬治療の段階から保障することで、早期治療によるお客さまの健康増進を応援します。


[詳しくはこちら](#)

「ネオ de がんちりょう(無解約返戻金型終身がん保険)」の改定(第一ネオ生命保険)

第一ネオ生命保険は、「ネオ de がんちりょう」を改定し、公的医療保険が適用されないがんの治療を受けたときにかかる費用の実額を保障する特約やがんの治療を目的として入院をしたときに備える特約を新設しました。ご契約から保障が開始するまでの3か月間の保険料の払込みを不要とするなど、多様化するがんの治療に備える網羅的な保障を納得感のある保険料で提供しています。



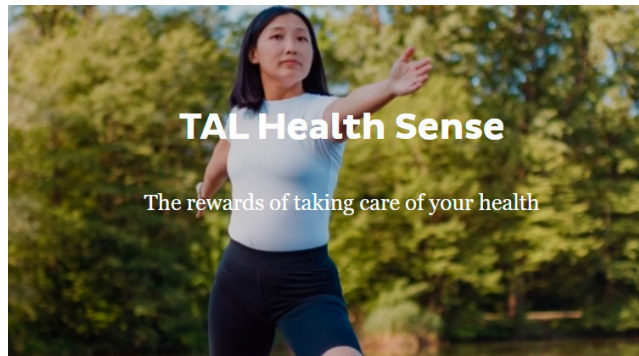
< 無解約返戻金型終身がん保険 >

[詳しくはこちら](#)

Health Sense Program(TAL)

Health Senseプログラムは、予防的な健康行動を実践するお客さまに対し、対象商品の保険料割引を提供することで、健康増進とwell-beingの向上を支援する取組みです。2025年度は、BMI値が一定の範囲内に収まった17万7,000人以上のお客さまに保険料割引を適用しました。

また、早期発見・早期対応の促進を目的としたHealth Sense Plusプログラムでは、健康診断を受診した適格なお客さまに対し、対象商品の保険料を2年間割引きしています。2025年度には、2万7,000人以上のお客さまが本プログラムの割引を受けました。



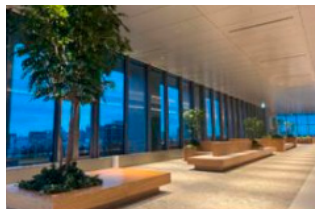
不動産開発

大規模再開発によるサステナブルな街づくり

第一生命保険は、多様な事業者・関係者と協働し、サステナブルで快適な街づくりや都市開発を推進することで、地域住民の方々のwell-being向上や地域活性化に貢献しています。

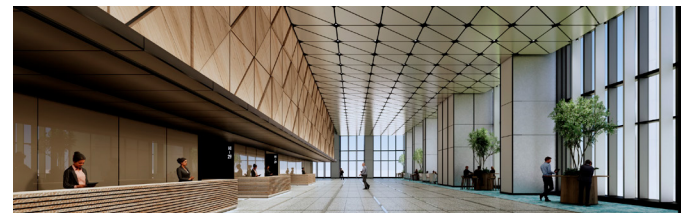
BASEGATE（ベースゲート）横浜関内

本プロジェクトは、JR関内駅前の旧横浜市庁舎街区を活用した大規模ミクストユース型プロジェクトであり、オフィス・新産業創造拠点・商業・ホテル・ライブビューイング施設など多様な機能を融合した複合都市拠点として整備したものです。第一生命保険はオフィス取得者として事業参画し、2026年3月19日にグランドオープンを迎えました。



内幸町一丁目街区南地区第一種市街地再開発事業

2029年3月に竣工予定の本プロジェクトは、日比谷公園に隣接した「HIBIYA CROSSPARK」の「南地区」において、延床面積約29万㎡の大規模複合ビル（仮称：サウスタワー）などを5社合同で整備する事業です。既存材料の再利用や緑化の推進、省エネルギー技術の導入に加え、世界初の取組みとして、フィルム型ペロブスカイト太陽電池をタワー棟のスパンドレル部の外壁側内部に設置します。エネルギー創出の最大化やエネルギーの地産地消などを通じて、先進的かつサステナブルで快適な街づくりを目指します。



不動産開発

保有不動産の地域活性化に資する取組み

第一生命保険が保有する物件では地域関係者と連携したエリアマネジメント活動を通じて、来館者や周辺地域の方々に新たな体験価値を提供し、人々のQOL向上や利用者のwell-being向上、そして地域活性化に貢献できる取組みを推進していきます。

SETAGAYA Qs-GARDEN

約9ヘクタールの敷地において、スポーツ施設、サービス付き高齢者向け住宅、クリニックモール、学生向け住宅などを一体的に整備し、多世代が交流する複合機能型のまちづくりを推進しています。また、既存の緑地や自然環境を最大限活用し、広場やオープンスペースを中心とした滞在性の高い空間を創出するとともに、地域住民・来街者が日常的に集い交流できる環境を整備しています。更に、地域と連携したスポーツイベントやコミュニティ活動などのエリアマネジメントを通じて、人々の交流機会の創出とコミュニティ形成を促進し、地域のにぎわい創出および持続的な地域活性化に貢献しています。



D-LIFEPLACE 札幌

2023年5月に竣工した本物件は、札幌駅前通りの中で地下鉄さっぽろ駅直上の交差点に位置し、チ・カ・ホ(札幌駅前通地下歩行空間)と直結したオフィスビルです。チ・カ・ホ直結のオープンスペースを備え、マルシェやワークショップなどのイベントの開催や、日常的に誰でも立ち寄ることができる交流の場として、地域住民の交流機会やにぎわいの創出に貢献します。



仙台第一生命ビル建替計画

2026年6月に新築工事に着工(2028年4月竣工予定)した本計画では、仙台市・地域団体との連携のもと、仙台市役所や公園など周辺公共施設と調和した一体開発を推進しています。加えて、歩道の商業利用やイベント開催などを通じ、ハード・ソフトの両面からまちに開かれたシームレスな空間を創出し、新たなにぎわいと憩いの拠点づくりに取り組んでいます。

